

頌
春
二〇一一年元旦

辛亥革命百周年の年を迎えて 移情閣(孫文記念館)友の会会長 黄耀庭



李庚氏講演会で挨拶をされる会長

新年あけましておめでとうございます。

今年は孫文による辛亥革命百周年という記念すべき年に当たります。

昨年10月には神戸で「神戸フォーラム2010～辛亥革命百周年へ向けてのメッセージ」が兵庫県公館で、また11月には東京で「孫文の理想と東アジア共同体」シンポジウムが学術総合センターで開催されました。

さらに11月には移情閣・孫文記念館を会場に孫文研究会、移情閣友の会、孫文記念館による「孫文月間」の催しとして37日間にわたり「孫文2010」～中国の「国画」でみる孫文の生涯、中国水墨画展・講演と音楽の会～が催され、友の会は中国の著名水墨画家の李庚さんの作品展示・講演会などを主催しました。

これらの催しを通じて改めて認識させられたことがあります。

孫文が革命運動に関わった30年に及ぶ年月のうち、延べ9年間は神戸をはじめ日本国内で活躍したのですが、その間、政財界の重鎮から一般市民まで、孫文を支援した日本人が、いかに数多く多岐にわたっていたかということです。

私はそこに真の意味での日中の草の根交流を見る思いがいたします。

ところで舞子公園には、移情閣以外にも歴史的建築物として旧木下家住宅※1、旧武藤山治邸※2があります。昨年11月にこれらの建物がグランドオープンし、明治・大正・昭和、さらに和・洋・中と時代、建築様式の異なる建物が揃って一般公開されています。

これによって移情閣自体の存在がさらに多くの人々に知られ、これまで以上に国内外から足を運んでもらえるのではないかと期待をいたしております。

友の会はその目的を、「移情閣を拠点として各種の文化活動を行い、日中並びに国際間の文化交流を通じて会員相互の親睦を図る」と謳っています。

恒例の行事としては、昨年9月に「2010移情閣まつり・月見の会」が催されましたが、中国でも知名度の高い女優の中野良子さんが講演と歌唱でゲスト出演、花を添えてくださいました。中野さんには今後も親善大使として日中友好にご協力をいただけるとのことで、大変心強く思っております。

友の会では今年も恒例の行事の他に百周年に関連した行事もあるかと思いますが、会員の皆様には昨年引き続きのご協力をお願い申し上げます。

またこのような行事や日常の同好会活動を通じて、さらに新規会

員の増強にもお力をいただければと思っております。

辛亥革命百周年の年に当たり、改めて日中友好のために歴史のなかを駆け抜けた両国の先人へ思いを馳せ、孫文ゆかりの、ここ移情閣から国内外へ向けて新たな時代の日中友好の情報を発信し、移情閣の存在自体を高めたいと願うものです。

本年もよろしくお願い申し上げます。

※1<旧木下家住宅>

舞子公園の西地区にあります。国の登録有形文化財。昭和16年に竣工した数寄屋造近代和風住宅です。昭和27年に木下家の所有となり、平成12年に兵庫県が寄贈を受けました。建物の保存修復工事、庭の再生を終え、平成21年10月から公開されています。

※2<旧武藤山治邸>

鐘紡中興の祖、武藤山治が明治40年に建てた住宅です。一時、垂水区狩口台に移築されていましたが、平成19年、兵庫県がカネポウ榊より寄贈を受け、建物の縁の地である舞子公園への移築・修復工事を進めてきました。工事は昨年の11月に完了、一般公開されています。(※印解説は編集委員)

2011年移情閣友の会 新春のつどい(お知らせ)

日時	2011年1月30日(日)	12:00~14:30
場所	舞子ピラ3F 藤の間	
会費	5,000円	南京玉すだれ
定員	40名	皆で歌いましょう
申し込み	移情閣友の会事務局	などもあります
	Tel. 078-783-7172	Fax. 078-785-3440
	1月15日締め切り	



李庚氏作画

移情閣まつり／月見の会 (2010年9月25日)

移情閣 (孫文記念館) 友の会企画運営委員長 佐瀬 祥一

今年度は移情閣まつりと月見の会を同日開催しました。移情閣まつりの主要イベントは講演と音楽の会で、移情閣1階の会場一杯の約80名の参加があり、女優の中野良子さんの講演&中野さんと移情閣コーラス指導者張文乃先生の協演で中国の歌(“大海啊故郷”他)を楽しみました。



講演：『私の見た中国～女優として、親善大使として～』
講師：中野良子氏

「君よ憤怒の川を渉れ」で中国でも有名になり、31年前、文化革命後、時の中国政府周恩来首相の提案により始まった平和交流が開始されたときに招待され、その後、政府レベルのみならず民間レベルでの多くの招待を受け、中国と深くかかわってこられた中野良子さんに中国での体験談、日中の交流についてお互いに何が重要なのかをお話していただきました。

最初に北京を訪れたとき眼で見た其の光景は地球と違う星に来た感じで、中国は龍の国、誰もが龍の国なのだということが、歓迎のすさまじい光景が目と耳を通してすっかり身体の中に入ってきた。中国では何が起こるかかわからない、自然も社会も。その後の中国での体験はどれも想像を絶するものばかり。その上中国では朝の約束を夜変えても良いという処があり、この31年間は命を落とすことに成りかねない危険な場面に何度も遭遇し何が起こるかも分からない中をずっとあるてきました。

そんな中でしたことは、肉眼で直に見、肌で感じたその凄まじいものを、次の瞬間に五感の中でそれは何故なのか何を準備したら良いのか考え分析することであった。そして中国とかかわっていく上で、考えたことは中国とどう向き合って平和文化(活動)を進めていくのか、どうしたら違いの大きい中国の戸を開け仲良くできるのか?を分析し解決策を編み出すこと。そして日中両国の違いを良く知ることだと思いついた。日中関係をやる前に、自分の国のことをまず知ろうと考え日本のありとあらゆるところに行き、日本の文化(「万葉集」「源氏物語」の朗読、日本の伝統文化等)を勉強した。それから相互に平和文化を伝えようとした。

交流は日本的に考えても巧くいかないし、中国的に考えても巧くいかないことから、第三者的な地球社会レベル(全球的な)視点で考えることが大事だと思いついた。

過去に起きたことを知りそれを参考にし、困った時や不安定なときにどうバランスをとればよいかを考える。

このような時に考えだしたのが三方の眼差しで見ることで、そして同時にこの3つの眼が動くようにする事。

即ち、① 驚いたり悩んだことに対し、其のときの心理を分析する。

② 出来るだけ相手の立場になって考える。(自分だったらこうするだろうな)

③ 大所高所から全体の動き(経済・社会・文化等の動向)を俯瞰してみる努力を惜しまない。

今、日中間で必要なことは①日中の間に新しいものを育てること。②お金で買えないものを築いていくこと。③逆もまた真なりと考えてみる。その上で正直にものを言えばお互いに理解するのが早い。

私にとって荒々しい命がけの交流ではあったが、これが良かった。



中国で困った時は“大海啊故郷”(小時候..)を唱うと安らかな気持ちになりきっと巧くいく、皆さんも是非覚えて唱ってください。

“こつこつと平和文化活動をやってきて、そして孫文さんがいて、それが縁で2010年の秋にここ孫文記念館で公演が出来て嬉しくまた光栄に思っています”と結ばれました。



月見の会

本年度の「月見の会」は、神戸県民局主催の「舞子公園グランドオープン・イベント～舞子ムーンライト～」と同時開催になりました。9月下旬ということで、肌寒い月見でしたが、舞子ピラの横に、きれいな月が昇ったときにはみんな感動しました。



孫文2010 「中国水墨画展」と「講演と音楽の会」



中国水墨画展 (李庚展)

場所：孫文記念館 2階
期間：11月2日(火)～21日(日)

中国水墨画展は中国の著名な水墨画家で京都造形芸術大学教授の李庚氏の作品35点を展示。作品は読売新聞朝刊に2002年から2003年にかけて連載された陳舜臣氏の孫文伝「青山一髪」の挿絵で、中には未公開のものもあり、李庚先生の孫文に対する思いが凝縮された作品は見ごたえがあり、孫文像を生き生きと描写されていました。

講演と音楽の会

場所：移情閣 1階 日時：11月13日(土)14:00～16:00



移情閣(本館)という素晴らしい会場で約70名の方に二胡演奏と講演を楽しんでいただきました。

〈鳴尾牧子氏の二胡演奏〉

講演に先立ち、数少ない日本人二胡演奏者で移情閣二胡同好会を指導されている鳴尾牧子氏が中国の代表曲“海よ我が故郷(大海啊故郷)”等4曲を演奏、その澄んだ透明感のある音色は会場を魅了しました。

李庚氏の講演「孫文と日本の友人たち—『青山一髪』中の人物像—」

陳舜臣氏の読売新聞朝刊連載小説「青山一髪」の挿絵を描かれた京都造形芸術大学教授李庚氏に挿絵を描かれたときの5年間の孫文研究を通じて得られた孫文像と歴史的人物の研究手法や未公開の挿絵作品を紹介していただきました。



李庚先生がお話された中で特に興味を引いたのは“孫文の革命の道筋(革命思想が生まれた背景)”でしたのでこの部分を少し紹介いたします。

孫文の革命の道筋は大きく分けて以下の6つに分けることが出来る。

1. 孫文は日本を孫文の革命を推し進め発展させ、革命思想を伝える拠点としました。この為に日本の友人達、華僑及び日本の政治家・軍人や民間人が孫文を支援し、彼らの高い気持ちは全て孫文の気持ちの中に入っている。孫文は人生の6分の1という長い年月を日本で活動。
2. 孫文の革命は世界を舞台にしており、各国での経験を元に、中国において革命を進めました。したがって辛亥革命は中国の二次革命ばかりでなく、世界の人類発展の上で非常に重要な1部分を占めていると考えられる。

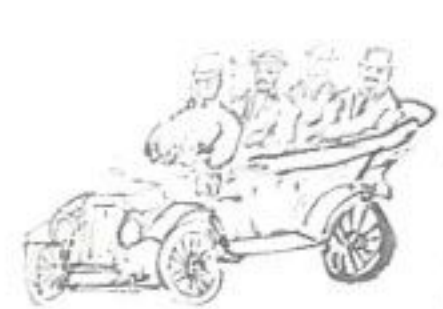
3. 孫文は革命人生と長期の流浪(亡命)生活により崇高ではあるが現実的には理想である大同世界(世界の人々は等しく皆同じ)であるという思想を生み出した。

4. 中国日本両国の近代史において、孫文の一生を通じて知ることが出来るのは、両国はきわめて尊敬状態(互惠)で相互に影響し合い助け合う一面があった反面十分不幸な面がありました。100年後の今日、更に高次元の角度からこれらの課題の再研究を試みたい。陳先生の小説を通じて我々はこの両国関係についていくつかの問題を見つけることが出来る。

5. 孫文は不幸な亡命生活の中で多くの女性から献身的な支援を受けています。側面から見ると革命者としての強い意志とともに、孫文の内面はとても繊細で優しい心の持ち主であったことが分かります。陳先生の小説の中に陳小姐さんが登場するのがいい例として挙げられる。

6. 陳舜臣先生は小説の中で孫文の革命運動において華僑と日本人が果たした献身と支援をとっても高く評価されています。

(文責：友の会企画運営委員長 佐瀬祥一)



アメリカの孫文



宮崎夫妻と孫文



清朝の高官



革命



窓から見た香港

移情閣(孫文記念館)友の会 今年の抱負

移情閣二胡同好会

友の会25周年が大成功に過ぎ、次の30年に向かって同好会として何をすればよいのか、難しいところですが、各同好会が知恵を出し合い行動して、又、35周年へつながるイベントができるように、まずは今年一年、会員同士の親睦をはかる何かができればいいなあと思っています。初心を忘れず、会員相互の和を大切に進んで行きたいです。



*日時 毎月第1・第3日曜日
14:00~17:00

*場所 シーマクス舞子公園集会所
*会費 入会金1,000円、月額2,000円
*講師 鳴尾牧子先生
*代表者 市位 勘子

移情閣コーラス同好会

発足23年目の今年も部員一同が元気で楽しく歌い続けられる事を祈念しております。昨年は中国での国際コンクールに「孫文記念館合唱団」として出場し金賞を受賞、又、県公館でのフォーラムに出演し好評を博しましたが、何よりの喜びは若く熱心な2名の新入会員を得たことでした。今年の抱負はあと2~3名の入会希望者を獲得し、更にハーモニーに磨きをかけ歌い続ける事です。



*日時 毎月原則第1・第3月曜日
10:00~12:00

*会場 移情閣、又は荻谷会館
*会費 1回 1,500円
*講師 張文乃先生
*代表 河合 純子

移情閣写真同好会

好きな写真!、気持ちの良い写真!、を撮って楽しもう!をモットーに、自然、動物、人物などに積極的にレンズを向け、撮影会や年一回の作品展で成果を発表しております。初心者の方、男女を問わず大歓迎です。来会をお待ちしています。

なお、今年の作品展は次の通り予定しています。

期間:9月13日(火)~18日(日)
場所:県民ギャラリー



*例会 毎月第1金曜日
13:00~15:00

*会場 孫文記念館友の会の部屋
*会費 6ヶ月3,000円
*指導 鎌方 彰、徳田祥一
*代表 徳田祥一

移情閣太極拳同好会

昨年は新規結成後初めて月見の会で演武を披露できました。今年は月3回の練習・24式の完全マスターとより多くの会員の確保を目指し励んで行きたいと考えています。



(神戸太極拳協会の皆さんの演武)

*日時 毎月第1・第3土曜日
13:30~15:00

*場所 移情閣庭園
*会費 毎月3,000円
(会員が増えれば見直します)
*指導 森本 千代子先生
*代表 佐瀬祥一

移情閣中国文化同好会

今年は辛亥革命100周年の年であり、通常の例会、公開講座&孫文2011の講演と音楽の会も例年以上に充実した内容で行えるよう企画したいと考えています。



*例会 毎月第3日曜日
14:30~16:30 (17:00より懇親会)

*場所 孫文記念館 講義室
*講師 各分野の専門家・有識者
*年会費 1,500円
*例会参加費 1,000円
*代表 佐瀬祥一
*幹事 菅田壽宏

移情閣囲碁同好会

囲碁は昨年の広州アジア大会の正式競技種目になり、世界的に注目されています。本同好会では全体の棋力の向上に力を入れたいと考えており、棋力上位者と下位者との対局数を増やし、互いに切磋琢磨してまいります。



*例会 毎月第2・第4日曜日
13:00~16:30

例会の他、夏期大会、シルバーカレッジ対抗戦、冬期大会、碧天杯大会など
*会場 孫文記念館友の会の部屋
*会費 6ヶ月 3,000円
*代表者 若林 明

移情閣中国語サロン 毎月第2・第4日曜日 11:10~12:40 (於)孫文記念館友の会の部屋

林美智子先生を囲んで寛いだ雰囲気様々な話題を中国語で話しています。コーヒーとお茶の時間もあります。参加費は1回500円です。本年度は新しい試みとして中国語を話せる外国人の参加を働きかけたり、中国茶や中国料理等の食文化を楽しむ会なども催し、楽しい会にしたいと思います。



発行 移情閣(孫文記念館)友の会 電話:078-783-7172 編集委員 佐瀬祥一 島田楊子
連絡先 神戸市垂水区東舞子町2051 FAX:078-785-3440 橘雄三 田所久子 田中哲也

友の会ホームページURL: <http://ijokaku-tomonokai.com/>